

# 2022年5月20日信貴山で観察した植物

## ヒナギキョウ (雛桔梗) キキョウ科ヒナギキョウ属 \*花期 5~8月

日本では1種のみ、関東以西から沖縄に分布。**名前の由来**=雛は小さいことを言い、桔梗の花に似ている小さい花というのが名前の由来です、キキョウとは漢方で桔梗(きつこう)と言いい根を去痰に使われていた、のがキキョウの語源です。**\*花言葉**=「明るい」「陽気」

枝先に5~6mmの青紫色の5弁の花を上向きに咲いている。葉は茎の下部に付ける、線状披針形で数は少ない、日当たりの良い道端などで高さ5~10cm位、茎は細くて陵がある、仲間にキキョウソウがある



## ヤブニンジン (藪人参) セリ科ヤブニンジン属 \*花期=4~5月

山野の日陰に自生する高さ30~70cmの多年草、太い根を持ち全体に毛が生えている、葉の表裏ともに、茎は枝分かかれして葉は互生、2回3出複葉、小葉は卵形で鋸歯がある、花は白色で5弁花、果実の特徴がある、上部が膨らみ根棒状の分果で上向きに棘がある、**名前の由来**=自生する場所が藪の様な所で、ニンジンの葉に似ているところから。根は乾燥させて生薬として**薬効がある**、腰痛、腹痛、頭痛などの鎮痛に煎じて使用、**\*花言葉**=喜び。 \*誕生花=2/9



## ヤブジラミ (藪虱) セリ科ヤブジラミ属 \*花期=5~7月

**名前の由来**=藪の様な所に自生して鉤状に曲がつたトゲ状の毛によって実がシラミのように付くことから。**\*花言葉**=「逃さない」先の曲がつたトゲ状の毛を密生させ衣服や動物にくっつくことから、もう一つの「ジキルとハイド」は可憐な清楚な花が、しつかりと絡みつくトゲのある実に変つて行く様子を例えたもの、葉はヤブニンジンと似ているので区別が難しいが、種子が出来ると判然とする。



## ノハカタカラクサ (野博多唐草・野博多柄草) ツユクサ科ムラサキツユグサ属花期4~5月

**別名・トキワツユクサ (常盤露草)** **名前の由来**=はっきりしない、野にある博多の唐草とか柄草とか書かれていて判りません。別名のトキワツユクサは常緑の露草のみみです、青色のコバルトブルーの露草は冬には枯れてしまうが本種は常緑で枯れない。やや湿った日陰を好み茎や葉裏が紫色を帯びる、緑色の時はミドリノハカタカラクサと言う、茎は地を這い節から根をだして伸びる、葉は2列互生多肉質で無毛、葉の基部は茎を抱く、昭和の初期にアジア、ニュージーランドから観賞用として渡来野生化、**+花言葉**=「尊敬」「貴ぶ」ツユクサの仲間は世界に40属500種ほどある。日本では当該種を特定外来生物に指定。



## ヒメコバンソウ (姫小判草) イネ科コバンソウ属 \*花期=5~6月

**名前の由来**=コバンソウより小さいので姫、コバンソウは小判の形に似ているからの命名、**別名・スズガヤ**とも、穂を振るとかすかな音をだすから、日当たりの良い場所に生える高さ20~50cm位の一年草、葉は線形で縁がザラつく、茎の上部に長さ5~15cmの直立する円錐状の花序を出して多くの小穂を出す、ヨーロッパから江戸時代に渡来**\*花言葉**=私の心に気づいて、(別名から)



## コマツヨイグサ (小待宵草) アカバナ科マツヨイグサ属 \*花期=4~11月

北アメリカ原産、本州~沖縄まで分布、乾いた砂地などを好み、匍匐して先端斜上して伸びる、葉は根出葉を除き無柄、倒披針形又は長楕円形で長さ2~5cm、普通羽状に浅く中裂する、上部の葉は浅い鋸歯がある、花卉は直径2~3cmで淡黄色、しおれると黄赤色になる、**\*花言葉**=ほのかな恋・もの言わぬ恋・浴後の美人 入浴後の乙女。 マツヨイグサは他に、オオマツヨイグサ、アレチマツヨイグサ、メマツヨイグサ・マツヨイグサ・オオバナコマツヨイグサ等がある。歌で歌われる宵待草は無い。



## アカカタバミ (赤片喰・赤酢漿草) カタバミ科カタバミ属 \*花期=5~9月

日本全国に分布、常緑多年草、**名前の由来**=夜になると葉を閉じるので片方を喰われたように



見えるので片喰となった、葉が赤いので赤片喰。道端など乾燥した所に生え、地を這い枝分かれして伸び先端で斜上して、腋から散形花序を出し直径8 mmぐらいの黄色の五弁花の花を咲かせる。赤酢漿草と言うのは、葉にシュウ酸が多いので酸っぱいので、葉で10円硬貨を磨くと綺麗になる。\*花言葉 = 「心の輝き」・薄い赤色の葉をアスアカカタバミと言う。





